

平成30年8月1日
一般社団法人日本ボクシング連盟
会長代行 森正 耕太郎
副会長兼専務理事 吉森 照夫

国体の隔年開催について

1. 評価が最下位となったことは日本連盟としても極めて遺憾であり、残念です。

当然、日本スポーツ協会（元の日本体育協会：以下体協という）に対し、その理由の説明を求めました。

なお体協からは、結果の説明と資料の提示を受けた以外には、格別に具体的な指摘は受けたわけではありません。

受領した結果表と評価基準に関する資料に基づき、以下説明します。

2. 体協の評価結果によると配点数に対して得点が半数より下であるのは、項目3「女子スポーツの推進」欄で配点200点に対して得点55点、項目5の「競技会の開催、運営協力」の欄で配点150点に対して得点72点、の2項目です。

上記の内、項目3の「女子スポーツの推進」に関しては、具体的な競技者数、指導者数、審判員数や国体参加人数が少ないことが致命的な結果となっています。

後述の通り、これら人数が少ないのは、ボクシング競技の性格からくることが多分に影響していると思われるものです。

次に項目5の「競技会の開催、運営能力」ですが、これを具体的に見ると、この中で点数が少ないのは、

- (1) 「各都道府県における競技者数、指導者数、審判員」の内、
 - 1) の「年代別、男女別の登録競技者数」については、配点15点に対し、得点3点
 - 3) の「審判員数」についての配点15点に対し、得点3点
- (3) の「指導者、審判員、審判員等の養成計画及び実施状況」の内、
 - 3) の「審判員の養成、研修等の実施計画、実施状況」について、配点15点に対し、得点3点、となっています。

3. 上記各評価につき日本連盟としての意見や説明を致します。

上記（１）の１）の、登録競技者数の問題についてですが、ボクシングは顔面を殴り合う、という競技の特別性や、一見危険との印象から、ボクシング競技選択を戸惑うことがある、ということが大きく影響していると思われま

す。ご存知の通り、日本連盟はボクシングにおいて選手の安全や健康を守るため、医学面、レフリング面、選手養成上において、他のスポーツに比べ、格段の配慮をしています。そのため、ここ数年は重症事故は殆どありません。

したがって、今後重要なことはボクシングが安全健康なものであることを一般に知っていただくこと、加えて青少年の心身の鍛錬にとって素晴らしいものであることについて理解と共感をいただくことが極めて重要です。そのためにはマスコミの協力が不可欠であると考えます。

なお、昨近はセカンドの登録制度を完全実施することにより会員登録する指導者が増大し、女性会員の人数が増えつつあります。

また、高校選抜大会及び国体に女子の階級枠を設けたことにより、徐々にではありますが、女子選手増につながっています。

なお、項目３の（１）で「女子の強化育成普及プランの策定や活動」の欄が２５点の配点に対し、各５点と少ないのですが、現実には日本連盟は女子の強化合宿や国際大会派遣に力を注いでおり、なぜこの点数が低くなっているのか、納得できないと考えています。

4. 次に上記の（１）の３）の「審判員数」及び（３）の３）の「指導者、審判員等の養成計画及び実施状況」の内の３）「審判員の養成、研修等の実施計画、実施状況」についてですが、総会における毎回の資料でもお分かりのように、ここ数年は、審判講習等は以前にも増して組織的計画的に実施しております。

他競技の具体的内容は明らかではありませんが、アンケート回答をした時点においても、上記の点が他競技に比べ劣っていたと言えるか、納得しがたい点があります。

しかし、審判講習等については審判委員会が総動員で鋭意努力をしている点は理解していただけたと思います。

5. まとめ

ボクシングに対する体協の評価の具体的内容は上記の通りであり、低評価ではありましたが、これらの具体的内容は一部の人が吹聴しているような、会長の個人的言動や態度とは全く無縁のものです。

今後日本連盟はマイナス評価をプラスに変えるべく、殊に女子選手、会員及び審判員増のため、全国の会員及び都道府県連盟と一丸となって対処していきたいと考えます。